

しなののうた

山道に蝉の亡骸ころがりぬ
蝉の一生われの一生



杉田小百合

しなののうた

牧かける牛馬惹かれ佇めば野を吹く風が夢誘いくる

杉田小百合



しなののうた

苔むせる野に置く墓のかたわらに魂呼ぶごとく彼岸花満つ

l.MI

杉田小百合

しなののうた

店員の勧める牧のソフト舐め味の濃さなど褒めて場を去る

杉田小百合



しなののうた

ひとり果てひとり歩める芒野に
唳唳と吹く風に和らぐ

l.MI

杉田小百合